

## 渡 辺 義 介 賞



合同製鐵株式会社代表取締役社長

加 藤 健 君

わが国鉄鋼業の進歩、発展、特に製鋼技術の進歩、発展

君は、昭和 18 年 9 月、東京帝国大学工学部冶金学科卒業後直ちに日本製鐵(株)に入社、主として製鋼技術研究分野に従事し、八幡製鐵所技術研究所長、取締役八幡製鐵所副所長、日本鑄鍛鋼(株)副社長、新日本製鐵(株)常務取締役堺製鐵所長を歴任後、専務取締役八幡製鐵所長を経、昭和 58 年 6 月、副社長、昭和 60 年 6 月合同製鐵(株)代表取締役社長に就任し現在に至っている。

この間次に述べる通り、我国鉄鋼業の進歩、発展に多大の業績をあげた。

1. 製鋼・鋼塊技術分野においては、まずセミキルド鋼、キャップド鋼の製造諸条件を明確にして製造技術水準を飛躍的に向上せしめた、ついで真空脱ガス法および転炉排ガス燃焼回収法(OG法)の開発にあたり極めて短時日のうちに操業技術を確立した。また、特殊鋼開発の分野では高張力鋼の開発等により、建築構造物の高層化、巨大化という時代の要請に応え、ステンレス鋼開発の分野においても、DH 真空脱炭技術、LD-VAC 技術の開発等指導的役割を果たした。更に、形鋼圧延技術分野においても連続圧延化技術の開発指導を行い、あるいは東田 5 高炉を急冷・縦断する実験を提起・指導し、融着帯を発見する等、鉄鋼技術の進歩、発展に多大の成果を

収めた。

2. 堺製鐵所長としては、CC-DR 法により画期的な省エネルギープロセスの基盤を築いて、同所をエネルギーモデル製鐵所とした。

3. 八幡製鐵所にあつては、鉄源部門の戸畑集約化により、幾多の高級鋼を含む多品種製品の鋼材を最も合理的に供給する最適生産構造を確立し、更に先端技術の粋を集めたホットストリップミル、シームレス鋼管工場の建設に当つた。これにより、斬新な創意と最新鋭の技術を駆使した一貫製造プロセス及び世界に誇る高級鋼の製造技術を有する製鐵所が完成することとなつた。これは需要構造の変化という外部経営環境の下で、歴史の古い既存製鐵所を高収益性の製鐵所にリプレースするという点で、世界に類をみない壮挙といえる。

4. 君の活躍は、広く鉄鋼業界・産業界の全般に亘り、日本学会会議会員、日経連理事、日本鉄鋼協会九州支部長、九州産業技術連盟会長として、業界のみならず地域経済の発展に大きく貢献した。

これらの功績に対し、渡辺義介記念賞、服部賞を受賞するとともに、フランス金属学会からもレオミュールメダルを授与されている。